

# 切磋琢磨

令和7年4月実施 全国学力学習状況調査の結果考察（日吉中学校）

4月17日に3年生で実施しました全国学力学習状況調査の結果をもとに分析、考察いたしましたので、お知らせいたします。今回の調査は、国語、数学テストとオンラインによる理科テストと生徒質問調査が行われました。

## 【調査目的】

- ◆義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◆学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◆そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 《国語》

### ◇正答率が高かった問題

- ・ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する。

### ◆正答率が低かった問題

- ・手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する。
- ・聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を選択したものとして適切なものを選択する。
- ・発表のまとめ内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く。
- ・ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く。

### ◇日吉中 国語の強みとその要因

- ・目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。
- ・文章の構成や表現の工夫についての読み取りの数値は高い。構成や表現については考えることができている。

### 《要因》

- ・基礎・基本をくり返し学習することによって、その定着がみられる。短文の学習に抵抗感が少なく学ぶことができている。
- ・大まかな構成や、他者の工夫について考え伝えている。

### ◆日吉中 国語の弱みとその要因

- ・「思考力、判断力、表現力」の「書くこと」、「読むこと」の数値が、他の項目と比べると低い。
- ・記述式で解答する問い合わせの無解答率が高い。
- ・自分の考えを分かりやすく伝わるように表現を工夫することに苦手意識がある。

### 《要因》

- ・自分の考えを表現することはできるが、その表現を推敲する力が弱い。
- ・自分の考えを形成する、表現するという学習経験が少ない。

### 【今後の課題と力点】

- ・基礎基本の徹底を継続し、語彙を豊かにすることで、自分の思いを表現できるようにする。
- ・自分の考えを文章で表現し、その表現で伝わるのか推敲するようにする。

## 《数学》

### ◇正答率が高かった問題

- ・じゃんけんカードゲームでAが勝つ確率を求める。

### ◆正答率が低かった問題

- ・一次関数  $y=6x+5$  について、 $x$  の増加量が 2 のときの  $y$  の増加量を求める。
- ・データの分布から、ある階級の総体度数を求める。
- ・連続する三つの 3 の倍数の和が、9 の倍数になることの説明を完成する。

### ◇日吉中 数学の強みとその要因

- ・「確率」の領域の「知識・技能」の観点に関わる問題の正答率が、他の問題と比べると高い傾向にある。

### 《要因》

- ・確率において、問題の内容をきちんと理解ができている。そのため、必ず起こる事柄の確率について理解できている。

### ◆日吉中 数学の弱みとその要因

- ・数の性質を文字を使った式で説明することや、関数の問題の基本的な内容が理解できていない。

## 《要因》

- ・ある命題が正しいことを筋道立てて論理的に導いていくのが苦手である。

### 【今後の課題と力点】

- ・なぜそうなるのかを筋道立てて説明する力を身につけさせる。口で説明できれば、それを文章で表現する練習をしていく必要がある。自分の考えを表現させるために、積極的に書かせる練習をし続け、記述問題が無解答にならないようにしていきたい。

## 《理科》

### ◇正答率が高かった問題

- ・加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する。
- ・「Web ページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものすべてを選択する。
- ・「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する。

### ◆正答率が低かった問題

- ・〈考察〉をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する。
- ・〈予想〉から学習した内容が反映された Aさんの〈振り返り〉を読み、Aさんの〈予想〉を判断し、選択する。
- ・実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す。
- ・小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する。

### ◇日吉中 理科の強みとその要因

- ・「生命」「地球」を柱とする領域に関わる問題の正答率が高い傾向にある。
- ・「知識・技能」の観点に関わる問題の正答率が、他観点の問題に比較して高い傾向にある。

### 《要因》

- ・視覚で確認できる自然の事物・現象については、その内容を適切にとらえることができ、知識として定着している。

### ◆日吉中 理科の弱みとその要因

- ・「粒子」を柱とする領域に関わる問題の正答率が低い傾向にあり、その中でも記述式問題の正答率が低く、無回答率も高い傾向にある。

### 《要因》

- ・身の回りの事象や探究活動から疑問を見出すことや、課題を解決するための課題設定、文章でそれらを表現することが苦手である。

### 【今後の課題と力点】

- ・視覚で確認することのできない事物・現象について、モデル図等を積極的に活用した学習指導を行い、イメージできるようにする。
- ・実験・観察活動においては内容の理解だけでなく、自分なりの発見や新たな疑問を考える時間をとることで、理科の見方・考え方を働かせる力を育成する。

## 《生徒質問調査》

「子どもたちは今、何を大切にして学んでいるのか？」ということについて、因子分析を用いて「見えにくい意欲のタイプ」を抽出することで、教師の感覚だけでは捉えられない“学習意欲のかたち”をデータから探りました。調査方法としては、生徒質問紙から「自己調整学習」「授業参加」「ICT活用」「学習意欲」の4つのカテゴリー別に20項目を抜粋し、国語・数学・理科の得点と紐づけて分析しました。

図1は分析結果になり、この結果から、学習意欲の隠れた構造が見えてきました。また、図2・図3・図4は国語・数学・理科の得点をグループに分けて、意欲のタイプ別に得点と回答結果を紐づけて分析した結果になります。

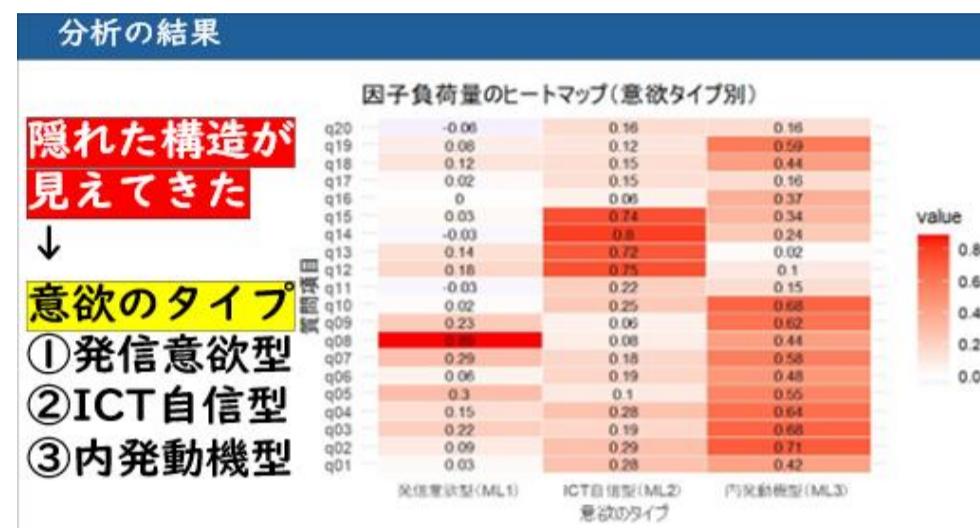


図1 因子分析の結果

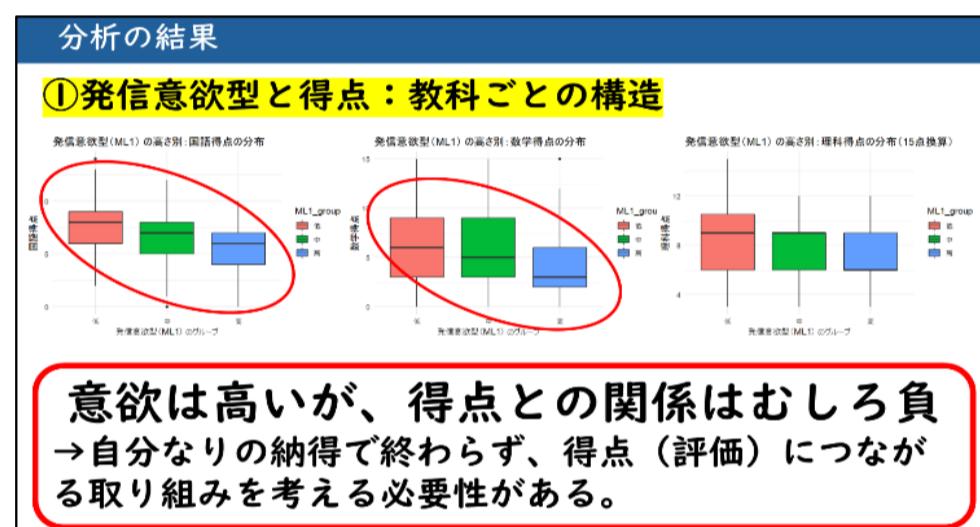


図2 発信意欲型と得点の教科ごとの構造

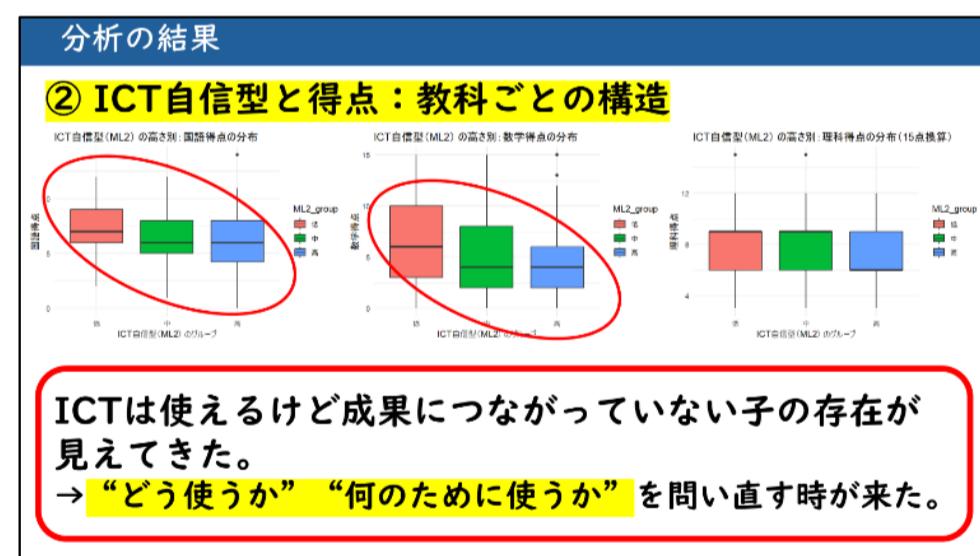


図3 ICT自信型と得点の教科ごとの構造

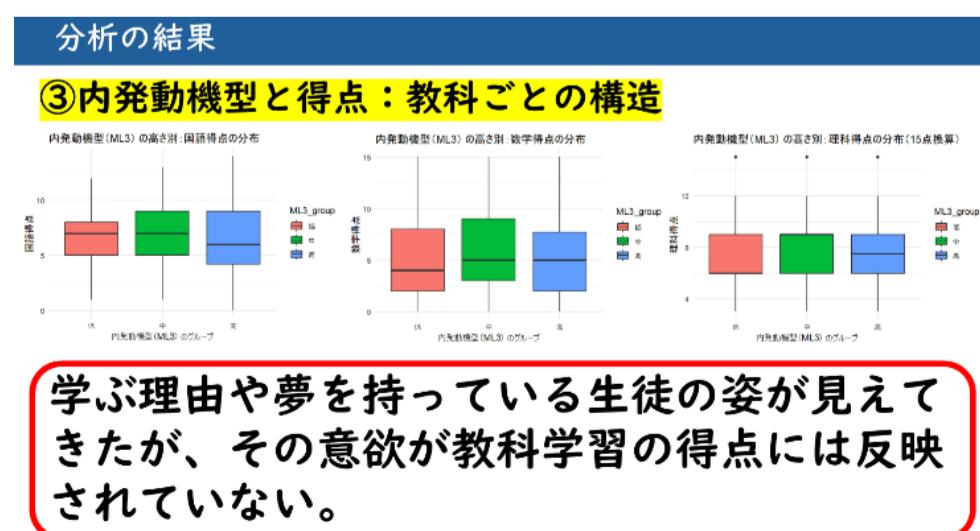


図4 内発動機型と得点の教科ごとの構造

## ◇日吉中 強みとその要因

本校の生徒は、学習に対して前向きに取り組む姿勢を多くの面で示しています。特に、

- ・自分の考えをまとめ発信しようとする「発信意欲型」
- ・ICT機器を積極的に活用しようとする「ICT自信型」
- ・夢や目標を持ち、学びの意味を自分なりに考える「内発動機型」といった3つの意欲のタイプが確認されました。

これらの結果から、生徒一人ひとりが自分なりの目的意識や学び方を意識しているという、本校の教育の成果が表れています。特に「発信意欲」や「主体的な参加」は、近年の授業改善の積み重ねによるものであり、学校全体として「学ぶ姿勢づくり」に力を入れてきたことが成果として現れています。

## ◆日吉中 弱みとその要因

一方で、今回の分析から、「意欲」と「得点（学力）」の間にズレがあることが分かりました。学習意欲が高くて、教科の得点に結びついていない生徒が多く見られます。

「発信意欲型」では、意欲は高いものの、得点との関係はむしろ弱い傾向がありました。自分の考えを発表して満足てしまい、振り返りや深まりに至らない学びがある可能性があります。

「ICT自信型」では、機器を使いこなす自信はある一方で、使う目的や活用の質が十分に成果に結びついていません。

「内発動機型」では、「学ぶ理由」や「将来の夢」は明確でも、その意欲を教科学習に活かす方法が定まっていない傾向が見られます。

## 【考察】

この結果は、単に「努力不足」ではなく、学習意欲の方向性や活かし方の課題を示しています。現代の中学生は、自分の考えや意思を持ち、ICTを活用する力にも長けています。しかし、それらを「得点」や「成果」に結びつけるには、学びの質を高める支援が必要です。

つまり、これからは「やる気がある」だけではなく、

- ・目的を明確にする学び
- ・結果を分析し、次に生かす学び
- ・他者と協働しながら考えを深める学び

が求められます。

本校では、これらの力を「自己調整学習力」として育てていくことを重点にしています。

## 【今後の課題と力点】

### 1. 授業の質的向上

各教科で「発表」や「発信」だけで終わらせず、そこから「なぜそう考えたか」「どうすればより良くなるか」を考える時間を確保します。

### 2. ICT活用の再設計

“使える”から“活かせる”へ。学習目的を明確にしたうえで、成果につながる活用法を指導します。

### 3. 自己調整学習の育成

「目標設定→取組→振り返り→改善」というサイクルを学級や教科で共有し、自ら学びを調整できる力を育てます。

### 4. 家庭・地域との連携

学校だけでなく、家庭や地域での学びにもつなげられるよう、学習習慣づくりや生活リズムの支援を引き続きお願いします。

## 【最後に】

今回の調査を通して、本校の生徒が「学びに前向きで、成長意欲の高い集団」であることを改めて確認できました。今後はその意欲を成果に結びつけ、\*\*「意欲と学力の好循環」\*\*をつくることを目指します。

保護者・地域の皆様には、引き続き子どもたちの学びを温かく見守り、ご支援をお願いいたします。